

平成29年度 大田区立松仙小学校 自己評価 報告書

平成30年3月1日

○ 本校の概要

◇開校64年目、児童数830名、25学級で、地域からは落ち着いた学校として一定程度の信頼を得ている。  
 ◇学級担任25名中2名が殆ど未経験の産休代替、専科を含め新規採用が3名、教員全体の平均年齢36.9歳で、20代30代の経験が浅い教員が7割を占めており、校内において教師としての基礎・基本の徹底及び教師としての資質・能力の育成が課題である。  
 ◇本年度の校内研究は、「楽しい学校の創造～生活・総合の楽しい授業の創造～」をテーマとし、生活科・総合的な学習の時間での主体的な学びの実践を通して課題解決を図り、10月31日には研究発表会で取組の一端を区内に発表する。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組及び今後の改善策	学校関係者記入欄 コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:全児童対象学校生活に関するアンケート 「授業中、勉強がよく分かる」項目において、肯定的回答93%以上	4	学習指導講師を活用し、3年生以上の算数の補習を128日間、放課後に行った。さらに、土曜日に2時間の補習教室を、年間6回行った。 ・外国語教育指導員を活用し、1・2年生は大田区外国語活動を年間8時間、4年生は年間12時間、3・5・6年生は年間35時間の授業を行った。平成30年度は、外国語活動を4年生も35時間となり、5・6年生は70時間となる予定である。	・外国語指導に對しての先生方の取り組みの頑張りがよくわかった。 ・児童アンケートにおいて授業がわかるなどの肯定的な回答が高く、また、学校側も補習等を行い、積極的に指導する姿勢が見える。今後は、外国語活動において、教員の指導資質の向上が求められる。 ・授業の充実、めあての確認、見通しをもつ、そして学びの振り返りが必要だと思ふ。 ・学ぶことは子供たちも大変だが、同じくらい先生方も学ぶことは時間がない中で、大変に努力されていると思ふ。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3:全児童対象学校生活に関するアンケート 「授業中、勉強がよく分かる」項目において、肯定的回答83%以上93%未満			
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	2:全児童対象学校生活に関するアンケート 「授業中、勉強がよく分かる」項目において、肯定的回答73%以上83%未満			
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	1:全児童対象学校生活に関するアンケート 「授業中、勉強がよく分かる」項目において、肯定的回答73%未満			
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	単元の見直しや毎時間の学習の具体的なめあてや授業の流れを子供に明示する。			
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:保護者向け学校評価アンケート 「学校は、子供一人一人を大切にしている」項目において、肯定的回答90%以上	3	・6月と10月の「子どもの心サポート月間」には、1～3年生は学校独自の、4～6年生は大田区のアンケートをとり、担任との面談を行い、いじめの未然防止に役立てた。必要と考える児童には、スクールカウンセラーの活用を図った。 ・生活指導面で支援が必要な児童には、ケース会議を必ず開き、子ども家庭支援センターや児童相談所とも連携を図った。 ・特別支援教育が必要と思われる児童には、月1回の特別支援委員会を開き、全学年で情報を共有した。	・松仙小学校を訪ねるたび、一人一人の子供の元気で明るいあいさつに出会う。明るく元気に豊かな心が育っていると思ふ。担任の活動を聞くこと、さらなる努力が必要である。 ・学校の教員が子供の変化を見る眼を養うこと、意識を向けることの実践を評価する。 ・保護者から高い信頼を得ており、今後も引き続き継続を望む。 ・問題を抱えた子供たちに対しての先生方の暖かなご指導がよくわかる。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3:保護者向け学校評価アンケート 「学校は、子供一人一人を大切にしている」項目において、肯定的回答80%以上90%未満			
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	2:保護者向け学校評価アンケート 「学校は、子供一人一人を大切にしている」項目において、肯定的回答70%以上80%未満			
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	1:保護者向け学校評価アンケート 「学校は、子供一人一人を大切にしている」項目において、肯定的回答70%未満			
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	毎週の生活指導夕会及び定期的な特別支援委員会及び効果的な支援支援を行うための職員会議等を通して、組織的に児童理解を深める取組を実施する。			
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。	4:保護者向け学校評価アンケート 「学校は、体育指導・給食指導・保健指導等で、健康教育・体力向上に努めている」項目において、肯定的回答93%以上	3	「一校一取組」としては、「短縄びよんびよんデー」(2月実施)と「長縄チャレンジデー」(12月～1月実施)を行っている。児童数830名程の割に校庭が狭く、一度に活動ができないなどの課題がある。 ・「一学級一実践」としては、「長縄チャレンジデー」を行っている。一学級で2本の長縄を校庭で回し、3分で跳べる回数記録と技能の向上を目指して活動した。	・児童をしっかりと見守っていただいている様子が良くわかる。 ・児童の体力低下が全国的な問題となっているが、できるだけ休み時間は外で活動するように指導をお願いしたい。 ・狭いながらも工夫をして校庭遊びを行っていて、何よりも先生方も一緒に遊んでいるのが楽しそうである。 ・体力向上については、保護者の意識をどう変えるのかは、大切だと思ふ。その啓発を工夫する必要がある。
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	3:保護者向け学校評価アンケート 「学校は、体育指導・給食指導・保健指導等で、健康教育・体力向上に努めている」項目において、肯定的回答83%以上			
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	2:保護者向け学校評価アンケート 「学校は、体育指導・給食指導・保健指導等で、健康教育・体力向上に努めている」項目において、肯定的回答73%以上			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	1:保護者向け学校評価アンケート 「学校は、体育指導・給食指導・保健指導等で、健康教育・体力向上に努めている」項目において、肯定的回答73%未満			
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:保護者向け学校評価アンケート 「子供は分かりやすい授業・楽しい授業を受けている」項目において、肯定的回答90%以上	4	・保護者向け学校評価アンケートでは、「子供は分かりやすい授業・楽しい授業を受けている」項目において、91.2%の保護者から肯定的な回答が得られた。 ・4月当初は「授業やりますコーナー」は活用されたが、その後だんだんと「自主授業公開」を活発に行えなくなり、互いに授業を見合い自主協議会までには至らなかった。今後は、最低でも月に1回は授業のない時間に学年内の授業を見合う等の決まりを作り、実行する。	・保護者から高い評価を受けているが、先生方が多忙のため、思うような活動ができなかったように思う。今後、先生方の時間の活用工夫が必要だと思ふ。 ・松仙小学校は、学習環境を向上させるために努力を続けていることが、研究推進委員の姿勢から分かる。 ・授業準備がしっかりとされており、子供たちも楽しそうに授業を受けている様子が見える。 ・学校としての総合力の向上の成果が出ていると思ふ。 ・研究発表会等がすばらしかったと思ふ。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3:保護者向け学校評価アンケート 「子供は分かりやすい授業・楽しい授業を受けている」項目において、肯定的回答80%以上90%未満			
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	2:保護者向け学校評価アンケート 「子供は分かりやすい授業・楽しい授業を受けている」項目において、肯定的回答70%以上80%未満			
		学級の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	1:保護者向け学校評価アンケート 「子供は分かりやすい授業・楽しい授業を受けている」項目において、肯定的回答70%未満			
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	「授業やります！」コーナーやC4th掲示板を活用し、日常的に自主的に授業公開し、互いに授業を見合い、自主授業協議会において授業を修正し合い、主体的に授業力を高めようとする取組をする。			
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくりたい。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:保護者向け学校評価アンケート 「学校は、家庭や地域と連携を図って、教育活動の充実を図っている」項目において、肯定的回答93%以上	3	・学校の基本情報や児童の活動状況は、月に1回の紙面を増やした「学校だより」や、情報量を増やした「ホームページ」で発信した。また、学校支援地域本部と連携し、年間2回「日本漢字能力検定」などを行っている。 ・大田区ガーデンパーティー、PTA夏祭り、ふれあい久が原大運動会、おやじの会焼き芋等の行事への参加教員がいても、授業以外で多様な体験活動を組織的に実践できなかった。	・先生方が、学校外の行事に参加してくれるのは、ちょっと驚いた。子供たちは、嬉しそうだった。 ・地域のソフトボールチームや、サッカーチーム等に校庭を開放したり、地域の各種イベントにも協力してくれている。 ・学校の通信や働きかけ、行事の参加状況で、さらなる地域の教育力を向上させてほしい。地域の方も信頼している。 ・学校からの発信を継続することで、協力する方が増加すると思ふ。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3:保護者向け学校評価アンケート 「学校は、家庭や地域と連携を図って、教育活動の充実を図っている」項目において、肯定的回答83%以上93%未満			
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	2:保護者向け学校評価アンケート 「学校は、家庭や地域と連携を図って、教育活動の充実を図っている」項目において、肯定的回答73%以上83%未満			
		PTA並びにおやじの会等との連携を深め、地域の教育力を生かした多様な体験活動を実施する。	1:保護者向け学校評価アンケート 「学校は、家庭や地域と連携を図って、教育活動の充実を図っている」項目において、肯定的回答73%未満			

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。  
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。  
 ○「学校関係者評価」の評価は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不明であるの4点について 評価した人数を記載する。